



(公財) 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



アホウドリ、小笠原諸島の聳島と嫁島で初めて繁殖成功！

<環境省、東京都 同時発表>

平成28年5月23日(月)

(公財)山階鳥類研究所

小笠原諸島^{むこじま}聳島ではアホウドリの新繁殖地形成事業※を行っていますが、本年5月に小笠原諸島全体でアホウドリ合計2つがいの繁殖が成功したと判断されますのでお知らせします。

- (1) 聳島では2008年に人工飼育によって聳島を巣立った雄個体1羽と、野生の雌個体の番いの中で産卵・孵化に成功し、本年1月9日に雛が確認されていましたが、この雛の巣立ちが、5月14日に確認されました。聳島で飼育個体から生まれた雛が巣立ったのは初めてです。
- (2) 嫁島では、5月9日にアホウドリの雛1羽が確認されました。親鳥は観察されておらず不明ですが、山階鳥研が同事業で人工飼育し巣立たせた個体や、同事業で誘引された個体の可能性があるかと推察されます。嫁島ではこれまでアホウドリの成鳥の飛来が確認されていましたが、雛は初確認です。

小笠原諸島では、2014年5月に媒島で雛が確認されており、今回の確認で、戦後はアホウドリの繁殖がなかった小笠原諸島での、同事業開始後のアホウドリの繁殖成功は3例となりました。

※この事業は、(公財)山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て、新しい繁殖地を形成する目的で、伊豆諸島鳥島のアホウドリの雛を小笠原群島聳島に移送(2008～2012年)し、その後モニタリングを実施しているものです。

1. 聳島での繁殖

1-1. 雛を巣立たせたつがい

2008(平成20)年に巣立った個体(カラーリング番号Y01、8歳、雄)と野生個体(足環なし、雌)

1-2. 確認場所

聳島の北西部で雛を飼育し巣立ちをしたところ。Y01はこの場所で、2012年から3シーズン連続して足環なし個体との間で産卵が確認されていましたが、いずれも孵化には至りませんでした。

1-3. 確認の状況

山階鳥類研究所が5月13日午前11時30分に現地で観察した際には繁殖場所に雛が観

察されましたが、翌5月14日朝に現地を訪れたところ、繁殖場所に雛が見当たらず、午前8時20分に、繁殖地の下の、岸から数十メートル下の海上に漂っているのを発見しました。

1-4. 備考

この個体には3月4日に環境省鳥類標識調査の金属足環(番号KANKYOSHO TOKYO JAPAN 13D-06691)ならびにプラスチック製の色足環(赤地に白く Y75 と刻印)を装着しています。

2. 嫁島での繁殖

2-1. 雛を巣立たせたつがい

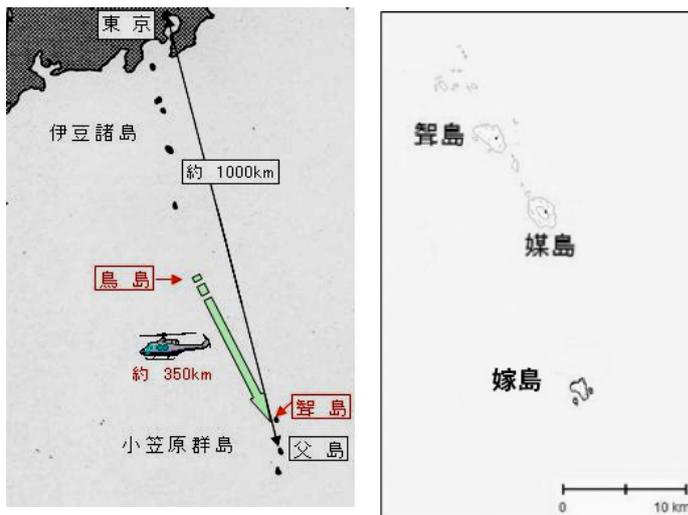
親鳥は観察されておらず不明です。

2-2. 確認の状況

5月9日にアホウドリ類の標識調査のため嫁島に上陸した東京都小笠原支庁および特定非営利活動法人小笠原自然文化研究所により確認されました。

2-3. 備考

嫁島の雛の詳細については、東京都環境局の発表資料もあわせてご参照ください。



【聳島の雛】 撮影：山階鳥類研究所

これらの画像の利用を希望される方は下記にご連絡ください。



＜巣立ち前の雛の様子。5月13日聳島＞



＜巣立ち後、海上にいる雛。5月14日聳島＞

【嫁島の雛】 提供：東京都



＜嫁島で初めて確認された雛。5月9日＞

● この件についての連絡先

(公財) 山階鳥類研究所 (270-1145 我孫子市高野山115)
保全研究室 尾崎清明 メール：ozaki@yamashina.or.jp
事務局広報担当 平岡考 メール：hiraoka@yamashina.or.jp
電話：04-7182-1107、Fax：04-7182-4342
山階鳥類研究所ウェブサイト：<http://www.yamashina.or.jp/>

<参考>

アホウドリ (*Phoebastria albatrus*)

ミズナギドリ目アホウドリ科

特別天然記念物

国内希少野生動物種 (種の保存法、1993年指定)

絶滅危惧II類 (環境省レッドリスト 2012)

分布及び個体数

- ・ 繁殖地は、日本の伊豆諸島鳥島と尖閣諸島。近年ミッドウエー環礁でも1つがい繁殖していたが、現在は繁殖していない。
- ・ 非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。
- ・ 1949年の調査で一度絶滅したと考えられたが、1951年に約10羽が鳥島で再発見された。1971年には尖閣諸島で少数の生息が再発見された。
- ・ 減少原因は、1890～1900年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。
- ・ 保全上の成果などもあり、現在個体数は約4,000羽 (尖閣個体群は除く) まで回復したと推定されている。

形態及び生態

- ・ 成鳥は全長が84～94cm。
- ・ 成鳥は全体に白く、風切羽や尾羽が黒い。頭部は淡黄色。雛から2歳ごろまでの若鳥は全身黒褐色で、成鳥羽になるまでは7～8年かかる。
- ・ 繁殖期は10月～翌年5月。
- ・ 巣立ち後3～4年で巣立った場所に帰ってくる。7歳前後から繁殖に参加するが、巣立った場所で繁殖を行う傾向が強い。

アホウドリの小笠原再導入

現在、アホウドリのふたつの繁殖地のうち、伊豆諸島鳥島は活火山であり、万一噴火があった場合には、アホウドリの個体群に大きな影響が出る可能性がある。もうひとつの繁殖地である尖閣諸島は、繁殖状況の調査や保護活動を行うのが難しい現状である。このため、過去にアホウドリが繁殖していたことが知られている場所から、1カ所を選んで、アホウドリの営巣地を復活させることで、本種の復活を一層確実にすることが望ましいと考えられた。このために山階鳥類研究所では、生まれた場所に戻って繁殖する同種の習性を利用して、雛の移送により小笠原群島聳島にアホウドリの繁殖地を作ることとした。2008年から2012年の5年間に合計70羽のアホウドリの雛を鳥島から聳島に移送して人工飼育し、69羽を巣立たせた。聳島の飼育地には2009年から野生のアホウドリの飛来が観察されるようになり、2011年からは人工飼育した個体の帰還が認められた。2012年11月14日には、2008年に巣立ちした人工飼育個体 (カラーリング番号Y01、雄) と野生個体 (足環なし、雌) の間に初めて産卵が確認された。

なお2014年5月に、聳島から約5キロ南の媒島 (なこうどじま) において、雛1羽が確認されており、DNA分析から人工飼育個体 (2009年巣立ち、カラーリング番号Y11、雌) と鳥島で生まれた年齢不詳の雄との間で生まれたものであることがほぼ間違いないことが判明している。

この事業は、(公財) 山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施している。

(以上)